

「播磨国風土記」の世界
「穴禾郡を巡る⑪」
しきわのこおり
古代の氏族と最後の物語

千三百年前の「播磨国風土記」を手掛かりに、古代の穴禾郡の姿を探ってきた連載も最終回となりました。穴禾郡では神々が物語の主人公として活躍しますが、播磨の国を巡り歩いた応神天皇など、天皇の物語は残されていません。風土記の傾向として、東は天皇の話、西は神々の話が多いといわれます。大和に近い地域ほど、物語の世界でも中央との結びつきが強いと考えるならば、伊和大神の本拠地である穴禾郡に天皇が姿を見せないのは当然かもしれません。



▲山崎町中野に鎮座する
恒武伊和神社

が里長となったことから名付けられたとか。また、安師里（姫路市安富町）の旧名「山守里」は、「山部三馬」が里長だったことによります。山部氏は山林の管理などを任されたとされたといい、古代の播磨では山直氏が有力氏族の一つとして勢力を誇っていました。山崎町中野には山部大王を称した恒武天皇の名を冠した恒武伊和神社が鎮座し、御陵と伝えられる遺跡が裏の宮山に存在しています。

もう一つ、氏族の話として、一宮町須行名の伊和神社が鎮座する石作里に石作首が住んだという地名由来が残されています。印南郡や飾磨郡に同族らしい石作連の話が残っています。石作里は旧伊和村、その前は神酒村、さらに古くは於和村でした。国作りを終



▲伊和神社本殿裏に
祀られている鶴石

えた時、大神が「於和。我が美岐に等らむ」、棺に入ってくれた。だから、その地を於和村と名付けたという話で穴禾郡の記述は結ばれています。

伊和恒郷に夢のお告げがあり、無数の鶴が飛来して聖地を整え、最後に二羽の大きな鶴が舞い降り北向きに眠った。そこに大己貴神をまつる社殿を建てたという、室町時代の地誌「峯相記」に載る伊和神社の由緒にどこか共通する話ではないでしょうか。

伊和大神の最後の姿を描いたともいえる物語をご紹介します。この連載を終えたいと思います。一年間お付き合いいただき、ありがとうございます。

(播磨学研究所研究員 埴岡真弓)

おいでよ図書館へ
宍粟市立図書館 ☎ 62-4620



移動図書館車
ささゆり号

図書館から離れた地域や福祉施設、小学校などを巡回しています。どなたでも利用できます。時間と場所は「しーたん放送」でお知らせします。



今月の
オススメ

山菜・野草の食いしん坊図鑑

編者／松本則行

著者おすすすめ103種の山菜の採取時期や見分け方、手軽なおいしい調理法を詳しく紹介しています。採取時や食べる時は、ルール・注意点を守って、山菜を楽しみましょう。



著者／エクスナレッジ

お酒の消費量や世界遺産の数、未確認動物スポット等、様々なジャンルで国を比較し、紹介しています。少し変わったランキングもあり、楽しく世界を学べます。

図書館カレンダー

□ 休館日 □ 館内整理日(休館)

【開館時間】午前10時～午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
						13 14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

編集
後記

平成 17 年 4 月 1 日、合併により誕生した宍粟市はまもなく 10 歳の誕生日を迎えます。「広報しそう」も今月は通算 120 号、ちょうど 10 年分です。◆当時の「広報しそう」には、身近な生活環境の変化や変更、宍粟市のめざす将来像などが掲載されているほか、トピックスでは土万ふれあいの館、伊和公民館、今市橋、室駐在所などが完成したとあります。◆広報紙はその時代の動きがわかる履歴書のようなもの。毎月大切に保管されている人も多いと思います。保管されていなくても市立図書館では誰でも自由に閲覧できますので、この機会に懐かしい話題や懐かしい人に出会ってみませんか。◆これからも「広報しそう」をよろしく願います。

安